平成21年度奨学審議委員会議事録

日 時：平成21年5月27日（水）
場 所：石狩市総合保健福祉センター
りんくる3階 301・302会議室

出席委員 市内中学校長5名：厚海委員、金森委員、安榮委員、佐々木委員、浅見委員
学識経験者3名：佐藤委員、橋本委員、久保田委員
民生委員3名：蓮田委員、片岡委員、藤村委員

事務局 池田学校教育課長、佐々木学校教育担当主査、岩城主任

傍 聴 個人情報を取り扱うことから非公開

会議次第

1. 委員長選任

委員長は当日、委員の互選により、佐々木保委員長を選出した。

2. 諮問

平成21年度奨学生の選考について

3. 審議

審議に先立ち、事務局において資料等の説明を行い、資料は審議終了後に回収する。

応募者 70名（高校生53名、大学生17名）

- ・ 今年度の応募者数は、過去最高であった平成19年度の55名を大きく上まわる70名となっている。
- ・ 昨年度は23名の奨学生を選考したが、今年度の予算は昨年度より増額されており、高校生と大学生の割合や、入学支度金の必要な新1年生の人数にもよるが、昨年の倍の45名程度の選考者が見込まれる。
- ・ 奨学生の選考については、基本的に選考基準により行なう。融資等の制度が利用できないなど、学資の工面が困難である家庭で、成績が優秀な者を選考する。
- ・ 母子家庭等で経済的に厳しい家庭環境にあると考えられる場合であっても、成績が5段階評価で平均評定が2点台だと成績が優秀とは考えにくい。
- ・ 優秀な成績であれば、多少経済的に余裕がある家庭でも選定してもよいのではないかという意見も出されたが、制度の趣旨は、経済的に厳しい状況にある家庭に対し奨学金を支給することとなっており、今までもその点を考慮し選定してきているので、これまでの基本線は変更しない。
- ・ 前年度に奨学金を受けている者は、基本的にその家庭状況が変わらなければ選考すべきと思うが、その他の応募者の状況で選考しない場合もありうる。また、高校時

に市の奨学金を受給していて、その者が大学に入学し申請があった場合の「連続性」については、それまでの経緯はリセットして考えたほうがよい。

- ・生活保護に関して言えば、平成17年度より高校生の教育扶助が認められたこととなり、公立高校授業料相当分や通学費、雑費、教科書等の費用は賄われることになっていることから、生活保護受給世帯は高校通学に関して学資の工面が困難である家庭であるとは一概にはいえない。(生活保護受給世帯の申請は高校で1件)
- ・きょうだいで応募している場合は、例えばどちらも選定基準を満たしている場合でも、多くの家庭にチャンスを与える意味で、どちらか1人を選定した方がよい。
- ・この資料だけでは、可処分所得が見えないので、実際の経済的な苦しさはわからない面もあるが、家族数や家庭状況等により判断する方がよい。
- ・高校、大学の応募者のどちらに重きを置いて選考すべきかといえ、現状では中学卒業からの就職は非常に厳しく、ほとんど高校に進学していることや、奨学金制度の充実度、アルバイトで自ら学費等を賄うことができるかという点から、やはり高校生ではないかと考える。

4. 答申

高校生34名、大学生13名を平成21年度奨学生として選考。

平成21年6月2日 議事録確定

石狩市奨学審議委員会 委員長 佐々木 保